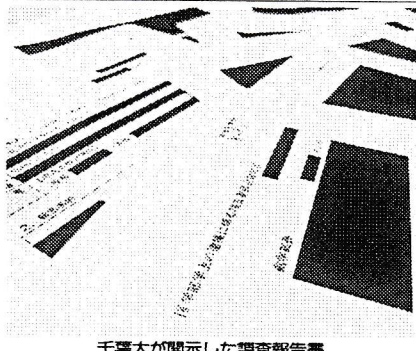


# 千葉大、報告書を黒塗り

## 事件強姦集団

### 情報公開請求に「不開示」過剰「指摘も

千葉大医学部生らが酒に酔った女性に暴行するなどした集団強姦事件で、千葉大が毎日新聞の情報公開請求に対し、事件の実態把握や再発防止策の検討を行った調査委員会の報告書を開示した。個人情報のほか調査の体制や手法、経過など大半が「黒塗り」だった。識者は「性犯罪という性質上、被害者保護を第一に考えるべきだ」として部分開示はやむを得ないとしつつも「不開示の範囲が過剰ではないか」と指摘している。



千葉大が開示した調査報告書

千葉大は事件発覚後、左対象に関する種類の調査の昨年11月と12月の記委を設置すると発表。者会見で、逮捕・起訴毎日新聞は調査終了後された医学部5年生の3、4月、報告書を人と付属病院の研修医情報公開請求した。

4月28日に開示された学生対象の調査の報告書はA4判117(添付資料含む)で、倫理教育の一層の強化▽適正な飲酒のための指導―などを再発防止策として掲げていた。研修医対象はA4判32(同)で同日に開示され、外部講師による倫理講習会の開催などを対策に挙げていた。一方で、面報告書とも調査結果の報告日や調査委員の氏名・肩書などは黒塗りにされていた。理由について千葉大は「今後、類似の調査で対象となった者

が自分に不利にならないよう対策を行う恐れがある」「友人や知人などには、被害者が誰かを知る手がかりとなる」などとしている。

開示内容について、NPO法人「情報公開クリアリングハウス」の三木由希子理事長は

「形式的な部分すら開示できないとなれば、調査が適切に行われたかどうか分からなくなり」と指摘。性犯罪対策に取り組むNPO法人「しあわせなみだ」の中野宏美理事長は「性犯罪を許さない」という大学の姿勢を示す

意味で、再発防止策を導いた根拠は明らかかすべきではないか」と疑問を投げかける。東日本のある大学幹部は「調査すると表明したのなら、結果についてもしかるべき立場の者が記者会見して明らかにし、言えない部

分やその理由も説明すべきだ」と千葉大の対応を批判した。千葉大はこれまで強姦罪で執行猶予付き有罪判決が確定した学生29人と、集団強姦罪で実刑とされた学生28人(2)を放學(学籍の剥奪)、

研修医(3)に準強制わいせつ罪で執行猶予付き有罪判決確定1人を懲戒解雇。集団強姦罪に問われ、28日に千葉地裁で懲役4年とされた医学部生の吉村也哉被告(23)についても処分を検討している。

【斎藤文太郎】